

# 「ガザ地上侵攻続行」 イスラエル国際圧力黙殺

【エルサレム=共同】イスラエルのネタニヤフ首相

は13日「国際的な圧力を前にしても、われわれを止めることは何もない」と述べ、パレスチナ自治区ガザの人道危機拡大に国際社会の懸念が高まる中でも地上

侵攻を続ける考えをあらためて示した。軍はイスラム組織ハマスの拠点と見なす南部最大都市ハンユニスの攻略を進めるが、ハマスは徹底抗戦。北部でも激しい市街戦が起きている。

10月の戦闘開始以降、ガザ側の死者は1万8600人以上。後ろ盾の米国のバイデン大統領は12日、イス

ラエルに「国際社会の支持を失い始めている」と警告。サリバン大統領補佐官

(国家安全保障問題担当)は14、15両日にイスラエルを訪問し、ネタニヤフ氏らと対応策を協議する見通し。

軍は14日も攻撃を続け、パレスチナ通信によると、多數の住民が避難する南部ラファでは同日未明、空爆で少なくとも27人が死亡。軍側の死者も増加し、13日にはこの1日で兵士10人が死亡した。地元メディアによると、10月下旬の地上侵攻以降、軍兵士の死者は116人。

ガザは13日にかけて雨に見舞われ、避難民のテントに雨水が流れ込んだ。冬の寒さも厳しくなり、避難生活に追い打ちをかけてい

がカマルアドワン病院を包囲し敷地内で70人以上を拘束したと発表した。ガザ保健当局は同病院で緊急医療ができず2人が死亡したと表明した。

13日、UNRWA施設で、アマル病院周辺で軍の砲撃による南部ハンユニスのアルマル病院周辺で軍の砲撃が続き、多くの負傷者が搬送されたと明らかにした。

北部ベイトラヒヤでは軍

がカマルアドワン病院を包囲し敷地内で70人以上を拘束したと発表した。ガザ保健当局は同病院で緊急医療ができず2人が死亡したと表明した。



14日、パレスチナ自治区ガザ南部ハンユニスで、イスラエル軍の攻撃で破壊された家屋=ロイター・共同

13日、UNRWA施設で

これまでに290人近い避難民が死亡し、約千人が負傷した。

レバノン国境でも13日、親イラン民兵組織ヒズボラとイスラエル軍の交戦が続いた。